

2026 年度 大学院 法学研究科 博士前期課程 入学試験
(一般入学選考 2 月)

2 時限目 B 専門科目または外国語
英語 試験問題

第 1 問、第 2 問 両方とも解答しなさい。

近畿大学大学院法学研究科

『一般英語』【合計 40 点】

以下の主張に対するあなたの考えや意見を、賛否の度合いと自身の経験も交えたうえで、50 語以上の英語で書きなさい。なお、語数の数え方は、“I agree with the idea.” であれば 5 語と数えることとする。

Social media should be banned for children under 16.

(2026年度入試) 2026年(2月) 法律英語

Wisconsin v. Yoder (1972)*

*以下の文章は、William Burnham's, "Introduction to the Law and Legal System of the United States," p. 380, West Group (2002) の一部を引用したものである。

次の英文を読んで(1)～(6)を和訳しなさい。(配点60点)

* 文章は著作権の関係により掲載ができません。 *

解

答

例

近畿大学大学院法学研究科 （ 博士前期 ） 課程

（ 2026 ） 年度 （ 2 ） 月期

（ 一 般 ） 入学選考

（ B 専門科目または外国語 ）

科目名 （ 英 語 ）

近畿大学大学院法学研究科

『一般英語』 【合計40点】

以下の主張に対するあなたの考えや意見を、賛否の度合いと自身の経験も交えたうえで、50語以上の英語で書きなさい。なお、語数の数え方は、“I agree with the idea.” であれば5語と数えることとする。

Social media should be banned for children under 16.

解答例

I partly agree with the statement that social media should be banned for children under 16. Many young users are exposed to cyberbullying, misinformation, and unhealthy comparisons that can harm their mental health and confidence. At the same time, social media can support creativity and connection. Rather than a total ban, stricter regulations, time limits, and guidance from parents and schools would better protect children while allowing responsible use.

出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科 （ 博士前期 ） 課程

（ 2026 ） 年度 （ 2 ） 月期

（ 一 般 ） 入学選考

（ B 専門科目または外国語 ）

科目名 （ 英 語 ）

本試験問題は、受験者の英語による論理的思考力と表現力を評価することを目的としている。
与えられた質問文に対して、自身の意見を明確に述べ、論理的な根拠を示しながら、50語以上の
英文で簡潔にまとめる能力が求められる。以下の4観点から総合的に評価する。

観点1：質問文に適切に応答し、明確な意見と根拠を示しているか。

観点2：文章の流れが論理的で、接続詞や段落構成が適切か。

観点3：適切な語彙を使い、表現の多様性が確保されているか。

観点4：文法が正しく、多様な構文が適切に使われているか。

出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科 （ 博士前期 ） 課程

2026年度入試 （ 2 ） 月期 <2025年度実施>

（ 一 般 ） 入学選考

（ B 専門科目または外国語 ）

科目名 （ 英 語 ）

この読解用文章は、アメリカの法と法史に関する教科書から、必要に応じて改変を加えて作成されたものである。具体的選ばれた箇所は、Wisconsin v. Yoder事件（1972年）における合衆国最高裁判所の判決、および義務教育に関する州の利益と、アーミッシュの親が憲法修正第1条で保障された信教の自由との間の対立に関するものであった。

試験では、受験者に大学院での学習中に遭遇する可能性のある英文の翻訳を求めました。その目的は、平均的な英語教科書を超越る高度な語彙や法的概念を、時間制限のある条件下で処理する能力を測定することでした。

このテストでは、英語から日本語への翻訳が課題であったため、各文に対して唯一の正解は存在しませんでした。ただし、採点は、全体的な正確性と英語の意味への忠実さを基準に行われました。